

ふじがし
⑥藤東 <千代田町>

人口 72 人、世帯数 19 世帯

藤東地区は、千代田町の東部の国道 264 号、385 号線沿いにあり、みやき町に隣接しています。385 号線の開通により多くの店舗が進出し、生活が大変便利になりました。

地区では、春・秋にお宮に集まり、おこもりを行っています。以前は、7月に祇園祭などを行っていましたが、現在は、少子化のため中止しています。

また、農地水環境保全事業にも取り組んでいて、水草除去、市道の草刈りなど全員で作業しています。特に子どもクラブによる菜の花、コスモスの作付けなど環境保全と美化活動に力を入れています。



▲藤東天満宮

おつなんり
⑤乙南里 <千代田町>

人口 182 人、世帯数 43 世帯

地区の伝統行事は、毎年 9 月に行われるお汐井とりです。今年は、7 日に行われます。

この行事では、城原川神代橋右岸堤防下にある地区の天満宮に引き継がれている赤と黒の天狗のお面(天保 3 年と記載)を地区内の中学生以下の男子により午前 5 時ごろから城原川お茶屋井堰あたりまで徒歩で南下して汐水により清め、無病息災・五穀豊穡を願います。

年々子どもたちが減少していますが、未来永劫にわたり引き継がれることを信じています。

この行事は、平成 18 年 3 月に千代田町の PR のためテレビで放映されました。



▲ 9 月 7 日に予定されている「お汐井とり」

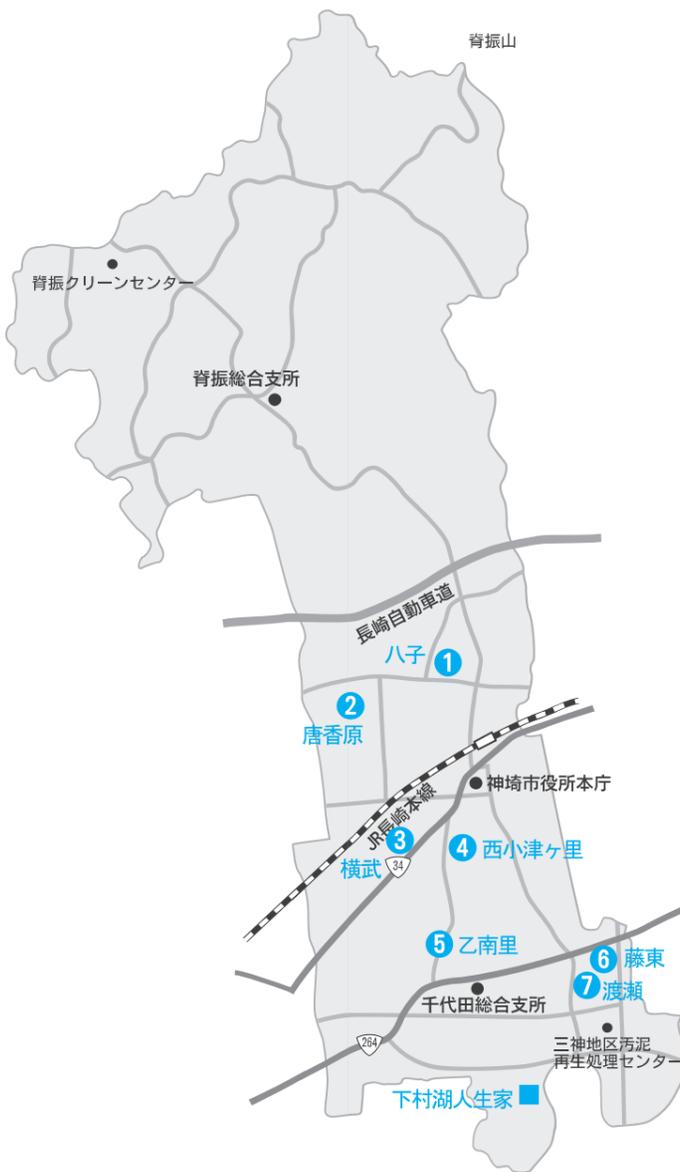
地区紹介 6



市民相互の理解と融和を図るため、市内 121 地区(神埼:63 地区、千代田:49 地区、脊振:9 地区)を紹介しています。

今回は、7 地区を紹介します。

※人口、世帯数は、平成 20 年 7 月末の住民基本台帳のデータです



からこうばる
②唐香原 <神埼町>

人口 84 人、世帯数 29 世帯

唐香原地区は、神埼町の北西、日の隈山の南に位置し、様々な遺跡が残る地区です。

江戸時代、佐賀藩直営の大筒(大砲)の射撃場があった所で、「台場屋敷」跡が今も残ります。日の隈山を標的とし、その道筋が「矢道」、大筒を据えた場所が「台座跡」です。

台場屋敷のすぐ南側には、奈良時代の「古代官道」が通っています。大宰府から肥前国府に向う西海道の一部で、唐香原では、田畑にその痕跡がはっきり残っています。



▲台場屋敷跡

やご
①八子 <神埼町>

人口 173 人、世帯数 55 世帯

地名の由来は、江戸時代の「川付村次」に「八子原」とあり、現在の八子の地名になったと考えられています。

大正 8 年に宮中の紅葉山の蚕神社の分神を請けて蚕神社を建て祀っています。また、二十余年、熱心に指導にあたった技師の頌徳碑を神社西側の自然石に刻み、八子養蚕の歴史を今に伝えています。戦時中には、食糧増産のため、桑畑はなくなり、昔の面影はありません。

地区の子どもクラブ活動では、夏休みに七夕祭の食事も、クリスマスには、みんなでケーキ作りをしてふれあい、仲間の振興を深めています。



▲養蚕神社(右)と福富技師の頌徳碑(左)

しもむら こじんせい か
■下村湖人生家 <千代田町>

「次郎物語」の作者として知られている下村湖人の生家。明治時代の初期に建築され、この家で湖人が幼少期を過ごしました。

昭和 47 年には、生家保存のため、下村湖人生家保存会によって買収、修復されました。また、平成 9 年から 10 年にかけては、傷みのひどくなった瓦や屋根を「瓦一枚募金」によって修復されました。

生家では、毎年、スケッチ大会、読書会、湖人生誕祭などが行われています。

現在、「第 1 回短歌コンテスト」の作品募集が行われています。

詳しくは、神埼市教育委員会社会教育課(☎ 44-2296)まで。



▲ 10 月 3 日には、生誕祭が行われる

わたせ
⑦渡瀬 <千代田町>

人口 274 人、世帯数 78 世帯

渡瀬地区は、田手川の東に位置し、4 つの小集落からなっています。

地区では、有明海の潮の満干を利用し、船による商いが栄え、肥沃な土地にも恵まれ、農業以外にも石灰の荷揚げ、製麺・製粉、製瓦、飴がた、竹細工などの産業も栄えていました。しかし、田手川改修などにより、以前に比べて戸数、人口が減ってしまいました。

地区の行事は、毎年 4 月に近くの次郎の森公園で地区民総出のふれあいスポーツ大会を開催しています。また、地区内 3 つの公民館、2 つのお寺で、老人クラブ、婦人会、子どもクラブなど独自の催しも毎月開かれています。



▲次郎の森公園での「ふれあいスポーツ大会」

にしおづがり
④西小津ヶ里 <神埼町>

人口 649 人、世帯数 207 世帯

神崎市制発足に伴い、地区の名称が、「枝ヶ里」から「西小津ヶ里」と変わりました。

20 数年前までは、10 戸足らずの小さな地区でしたが、周辺農地の宅地化が進み、現在では、200 戸を超える地区となっています。

地区の西側には城原川が流れていますが、昭和 28 年の水害後に改修されましたが、集中豪雨が降れば、安心できません。改修された堤防は、朝夕のウォーキングなど、最適の散歩道として親しまれています。

餅つき大会を数年前に再開しました。子どもたちとの触れ合いや住民相互の親睦を深めるために、今後とも続けていきたいと思っています。



▲再開された「餅つき大会」

よこたけ
③横武 <神埼町>

人口 414 人、世帯数 140 世帯

横武地区は、北は長崎本線、南は国道 34 号線に挟まれた神埼橋から西北方約 500 メートルに位置しています。

地区内には、昔ながらのクリークをそのままの形で残した「クリーク公園」があります。公園には、佐賀平野の農村で日本でもめずらしい構造を持つ葺葺民家「くど造り」の家屋が復元されており、休日には、釣り人や観光客でにぎわっています。

地区の行事は、市重要無形民俗文化財指定の「百手祭」で、地区内の乙龍神社で奉納され、神官の祝詞の後、東から大的、紙的、菱の順に立てられた的を一人 5 本の矢で射て、豊作や健康など一年の運勢を占います。



▲横武の百手祭(市重要無形民俗文化財指定)

まちの話題

消防団南部隊献血

7月6日、千代田総合支所で神崎市消防団南部隊による献血が行われました。この献血は、病気やけがなどで輸血を必要とされる患者さんを一人でも多く救うため、毎年行われています。当日は暑い中、115人の団員に協力していただきました。



子どもたちと花の植栽

7月23日、仁比山保育園（神埼町）で、神崎市商工会女性部（小淵征子部長）による思い出づくり事業が行われました。

年長児（25人）と商工会女性部（10人）が、30個のプランターに日々草などの花を植えました。子どもたちの「大切に育てます」との力強い声に、女性部の方たちは、笑顔でいっぱいでした。



緑の基金助成事業を活用した事業は、昨年までは、千代田町のこすもす苑で実施されていましたが、今年から「神埼市の将来を担う子どもたちと花の植栽や遊びなどを通じて子どもたちの思い出になれば」と市内の保育園などでも始められました。

水辺を活かした体験学習

7月19日、神崎市B&G海洋センター艇庫でカヌー体験と水辺を活かした自然体験会が行われました。

参加したのは、千代田西部小学校6年生41人。海洋センターの指導員と一緒に艇庫周辺で、葉っぱの形を競う葉っぱジャンケンや水辺のプランクトンを探取して透明なケースで観察をするなど、身近に隠れている自然の風景や生物を楽しく体験しました。

子どもたちからは、「もっと広い場所で水辺に親してみたい」などの意見がありました。

創立記念の夏祭り



7月25日、26日、神埼双葉園（神埼町）で、ふたば祭りが行われました。今年、98人の園児とその保護者が参加。一日目の前夜祭では、親子総踊りの後、みんなで花火を楽しみました。二日目は、縁日が開かれ、ヨーヨーつり、くじ引きなどを楽しみました。ふたば祭りは、今年で81回目。園の創立記念行事として毎年この時期に行われています。

広滝下祇園祭

7月12日、高取山公園（脊振町）ふれあい広場で、広滝下祇園祭が行われました。

この祭りは、江戸時代に疫病が流行り、それを鎮めるためにはじまりました。

猛暑の中、子どもクラブによる子どもみこし、金魚すくい、ヨーヨーつり、ニジマスのかみ取りなどが行われました。大人から子どもまで笑顔であふれ、楽しい夏の日になりました。

